

真面目に仕事をしてきた結果が社長だった

ダイニチマテニクス

台車やパレットなど物流機器の設計・製造を手掛ける専門メーカー、ダイニチマテニクス(埼玉県川口市)は、創業者の義理の息子が事業を承継した親族内承継のパターンだ。今年、創業50周年を迎えた同社を率いるのは根岸忍氏。3代目の経営者にあたる。実は創業者の知り合いである、取引先企業の関係者が2代目としてあとを継いだ。再度、自社のたたき上げである根岸氏が継ぐことになった。就任当初の経営状況は安定しているものではなかったが、独自の経営手腕を発揮。社員にコストやムダに関する意識を持つことを徹底し、顧客の工場や倉庫で、どんな物流ニーズや条件、環境があるのかを聞き取る地道な営業を展開。最適な専用機器を提案・開発するソリューション型のビジネスを続けたことで業績が回復した。経営の舵取りを行いながら、次の経営者候補をつくることを常に意識している。

発想豊かな技術者が始めた物流機器の新ビジネス

「私は創業者である初代社長の娘の夫にあたるのですが、それが承継の直接的な理由になったわけではありません。経営を引き継ぐことになったの

はほかに適任者がいなかったからで、自ら望んだことはなかったですね」と根岸氏(写真1)は事業を承継した経緯を振り返る。

ダイニチマテニクス(写真2)の前身である大日パレット製作所が設立されたのは1969年。非凡な才能を持つ技術者だった日野清氏が、それまで勤めていた機械メーカーから独立して創業した。

「義父はとにかくアイデアに溢れた人で、翌年には搬送用コンテナの中にラックを設けたラックテナーという製品を開発し、自動車部品メーカーから大量に発注があるヒット商品になったのです」(根岸氏)。

それまでのコンテナがただの大きな箱だったのに対し、輸送する部品に合わせたラックで内部を区切ることにより効率的に運ぶことができるような製品を開発した。このようなオーダーメイド型のモノづくり(写真3)をダイニチマテニクスは得意とし、最近でも自動車のインパネ専用パレット(写真4)やプリント基板用フィルム専用パレット

写真1 根岸 忍氏



会社概要

会社名：(株)ダイニチマテニクス
所在地：〒334-0058
埼玉県川口市安行領家 1212-1
設立：1969年
従業員数：20名
事業内容：物流機器の技術開発・製造・販売

写真2 ダイニチマテニクス本社外観



写真3 顧客の要望を取り入れて製品をつくりあげる



写真4 自動車部品専用パレット

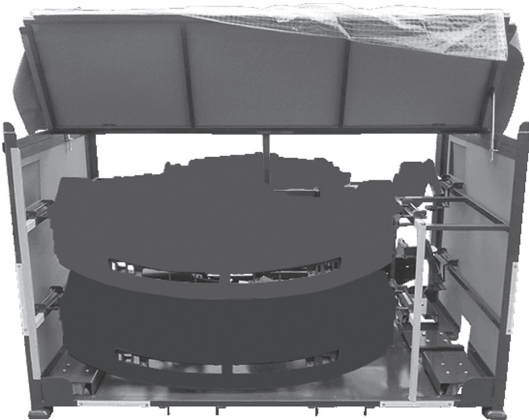
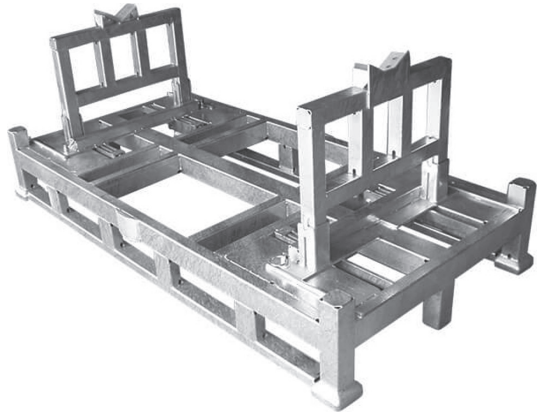


写真5 プリント基板フィルム用パレット



(写真5)、キノコ栽培用台車(写真6)といった製品を開発し、顧客の細かいニーズに答えている。物流機器を通じて社会に貢献する創造型提案企業という企業理念を実践してきた。

「工場の生産ラインでは部品や製品を移動させる作業が必ず生じます。汎用の輸送機器でも代用はできないわけではありませんが、用途や条件に合わせた専用の台車やパレットを使うほうが生産性は上がり、結果として物流コストの軽減につながるのです」(根岸氏)。

創業者はそこにビジネスチャンスを見出したのだが、そんな優れた経営センスは10年後に再び発揮される。

「現在の場所に新工場を建てる時、部品を製造してもらっていた協会社に声を掛け、一緒に移転してもらったのです。それにより生産拠点の集中化が実現し、プレス加工や板金・溶接・塗装・組立の一貫生産体制が完成しました」(根岸氏)。

協会社のいくつかとは工場が地続きでつなが

っており、仕事のやりとりはスムーズだ。ちなみに、同じように事業の承継を経験しているところもあり、そういった情報を共有できる点でも近くにいるメリットは大きいという。

「独自に製品を持ち、しかも開発と製造に強みがあったおかげで、会社は比較的、順調に成長していきました。もちろん、オイルショックなど景気の波の影響は受けましたが、経営が危機に陥るといったことはなかったのです」と根岸氏は自社の状況を説明する。

交際相手の父親が就職先の社長だった

そんな優良企業であるダイニチマテニクスに根岸氏が入社したのは、創業から20年近く年経った1987年だった。

「大学で電気工学を専攻していたため、モノづくりには興味があり、独自開発に力を入れる、面白い会社だと思ったのです」(根岸氏)。